

幼保園児の生活状況調査の考察(2)

幼稚園児と保育園児との比較検討

(分担研究:小児期の成人病危険因子の効果的検出方法の開発に関する研究)

大木師礒生、池田 宏、松田光彦、松本寿通、木屋和見
安達 功、阿部正視、少名子正彬、宮地直丸、村川 寿

【要約】平成元年度に、私どもは幼保園児の日常生活状況調査を行い、カウプ指数18以上の園児は、性格は活発であり、母親の就労が影響すると報告した。今回は幼稚園児と保育園児の保育環境を調査し、比較検討した結果から、両者に体格ならびに生活状況に大きな相違があることを知った。

【見出し語】 幼保園児の体格比較、保育環境、園児健康診査の保護者意識

【はじめに】 昨年、本報告の第一報で、カウプ18以上の子どもの遊びと性格は、一般児より外遊びが好きであり、性格も活発であったことを報告した。

本年は園児の保育条件が、園児の体格に与える影響を調査検討したので報告する。本邦の3歳から小学校就学前までの子どもは、大多数が幼稚園ならびに保育園に就園しており、これらの園児の生活の調査により、本邦の3歳より就学前までの子どもの状況を把握できるものと考え。

その子どもの多くは、幼稚園と保育園に2分され、昭和63年の幼稚園児数は2,016,224人で、

保育園児数は1,684,958人となっている。幼稚園と保育園では、制度目的が異なり、幼稚園は主知的しつけ的な幼児教育を主眼としており、保育園は子どもの保育であり、保護、養育と共に、教育を併せて考えることを目的としている。対象年齢、在園時間、家庭環境等と保員環境はこの2者はそれぞれが異なるものと考えられる。私共はこの両園の保育環境が、子どもに如何に影響を与えるかを調査検討した。

【調査方法】 私どもは日本保育園医協議会会員に依頼し、東京都目黒区、柏市、千葉市、川崎市、

日本保育園医協議会 (Japanese Council of Nursery Doctors)

福岡市の大中都市の幼稚園ならびに保育園19園の保護者に調査票を配布し、園児の生活状況についての保護者の意識調査をした。幼稚園、保育園の調査人数を同数との配慮もあり、3歳から就学前までの幼稚園児1,061人、保員園児1,092人の合計2,153人より回答を得て検討した。

【調査成績】 幼保園児の性格は、男性1,122人(52.1%)、女性1,031人(47.9%)であり、前述の如く保育条件によって、幼稚園児1,061人(49.3%)、保育園児1,092人(50.7%)に2分して調査したところ、カウプ指数1.8以上の園児数は表1の如く、総数は2,153人(6.3%)であり、幼稚園児は48人(4.5%)で、保育園児は88人(8.0%)と保育園児に2倍近い人数がみられた。

表1 カウプ指数1.8以上の園児数

施設種別	総数	幼稚園	保育園
人数	2,153人	1,061人	1,092人
18以上	136人	48人	88人
百分率	6.3%	4.5%	8.0%

このような状況から、住居形式、両親の職業、家族構成、子どもの遊びの好み、性格、夕食後の間食ならびに飲みものの好み、血液生化学検査の要望について検討した。

住居形式は表2の如く、両者には顕著な相違はなかったが、保育園児の家庭では、幼稚園児に比較して独立家屋に住んでいる園児は少なかった。

父親の職業は表3の如く、幼稚園児の家庭は会

表2 住居形式

施設住居	総数	幼稚園	保育園
集合	1,159人 (53.8%)	545 (51.3)	614 (56.2)
独立	829 (41.4)	483 (45.5)	409 (37.4)
その他	73 (3.3)	19 (1.7)	54 (4.9)
無回答	29 (1.3)	14 (1.3)	15 (1.3)

表3 父親の職業

施設職種	総数	幼稚園	保育園
会社員	1,334人 (61.9%)	781 (73.6)	553 (50.6)
公務員	255 (11.8)	111 (10.4)	51 (4.6)
教員	72 (3.3)	21 (1.9)	76 (6.9)
自営業	254 (11.7)	93 (8.7)	161 (14.7)
その他	110 (5.1)	44 (4.1)	66 (6.0)
無回答	128 (5.9)	11 (1.0)	117 (10.7)

社員、公務員が多く、保育園児の家庭は幼稚園児の家庭に比較して、自営業、教員が多く、回答を寄せなかった家庭も多かった。

母親の職業は表4の如く、幼稚園児の家庭では専業主婦が78.0%と大多数であったが、保育園児の家庭ではパート、自営業は各26.0%と最も多く、会社員の23.6%、公務員14.9%となっており、専業主婦は僅か41人の3.7%であった。

表4 母親の職業

施設 職種	総 数	幼稚園	保育園
会社員	330人 (15.3%)	72 (6.7)	258 (23.6)
公務員	169 (7.8)	6 (0.5)	163 (14.9)
教 員	83 (3.8)	7 (0.6)	76 (6.9)
自営業	166 (7.7)	32 (3.0)	284 (26.0)
パート	329 (15.2)	45 (4.2)	284 (26.0)
専 業 主 婦	869 (40.3)	828 (78.0)	41 (3.7)
その他	130 (6.0)	29 (2.7)	101 (9.2)
無回答	77 (3.5)	42 (3.9)	35 (3.2)

家族構成は表5の如く、両者に顕著な相違はなく、一家4人家族が最も多かった。

子どもの遊びの好みについては表6の如く、男

表5 家族構成

施設 人数	総 数	幼稚園	保育園
3 人	331人 (15.3%)	110 (10.3)	221 (20.2)
4 人	989 (45.9)	523 (49.2)	466 (42.6)
5 人	483 (22.4)	249 (23.4)	234 (21.2)
6 人	195 (9.0)	105 (9.8)	90 (8.2)
7人以上	98 (4.5)	68 (6.4)	30 (2.7)
無回答	10 (0.4)	4 (0.3)	6 (0.5)

表6 遊びの好み

施設 種別	性	総 数	幼稚園	保育園
外遊び	男	484人 (43.4%)	219 (39.6)	268 (47.0)
	女	386 (37.4)	173 (33.9)	213 (40.8)
内遊び	男	147 (13.1)	75 (13.5)	72 (12.6)
	女	129 (12.5)	66 (12.9)	63 (12.0)
どちら とも言 えない	男	481 (42.8)	256 (46.3)	225 (39.4)
	女	507 (49.1)	265 (52.0)	242 (46.3)
無回答	男	7 (0.6)	2 (0.3)	5 (0.8)
	女	9 (0.8)	5 (0.9)	4 (0.7)

表7 子どもの性格

施設 性格	性	総 数	幼稚園	保育園
活 発	男	454人 (40.4%)	192 (34.7)	262 (45.9)
	女	433 (41.9)	190 (37.3)	243 (46.5)
おとな しい	男	121 (10.7)	63 (11.7)	58 (10.1)
	女	90 (8.7)	55 (10.8)	35 (6.7)
ふつう	男	537 (47.8)	296 (53.6)	241 (42.2)
	女	496 (48.1)	259 (50.8)	237 (45.5)
その他	男	4 (0.3)	1 (0.1)	3 (0.5)
	女	8 (0.7)	2 (0.3)	6 (1.1)
無回答	男	6 (0.5)	0 (0)	6 (1.0)
	女	4 (0.3)	3 (0.5)	1 (0.1)

表8 夕食後のおやつ

施設 間食	総数	幼稚園	保育園
よくある	158人 (7.3%)	56 (5.3)	126 (11.5)
ときどきある	808 (37.5)	329 (31.0)	471 (43.1)
ない	1,148 (53.3)	662 (62.4)	470 (43.0)
無回答	39 (1.7)	14 (1.3)	25 (2.4)
	966 (44.9)	385 (36.3)	597 (54.7)

表9 おやつ好み

施設	総数	幼稚園	保育園
スナック菓子	695人 (32.2%)	420 (39.5)	275 (25.1)
甘いケーキや菓子	366 (16.9)	203 (19.1)	163 (14.9)
果物	504 (23.4)	180 (16.9)	324 (29.6)
せんべい	433 (20.1)	195 (18.3)	238 (21.7)
ハンバーグ	5 (0.2)	0 (0)	5 (0.4)
ラーメン	13 (0.9)	4 (0.3)	9 (0.8)
その他	105 (4.8)	45 (4.2)	60 (5.4)
無回答	32 (1.4)	14 (1.3)	18 (1.6)

女に相違があるものと考え、男女を区別して検討した。その結果は男女共に保育園児の方が幼稚園児より外遊びを好み、子どもの性格も表7の如く、保育園児の方が活発な子どもが多かった。

夕食後のおやつは表8の如く、よく食べている、またときどき食べている園児は保育園児の方に多

表10 飲みものの好み

施設 飲みもの	総数	幼稚園	保育園
乳酸飲料	193人 (8.9%)	80 (7.5)	113 (10.3)
牛乳	1,340 (62.2)	678 (63.9)	662 (60.6)
ジュース類	340 (15.7)	165 (15.5)	175 (16.0)
炭酸飲料	48 (2.2)	24 (2.2)	24 (2.1)
その他	212 (9.8)	106 (9.9)	106 (9.7)
無回答	20 (0.9)	8 (0.7)	12 (1.0)

く、夕食後の間食を食べていない園児は幼稚園の方によくみられた。

おやつ好みについては、表9の如く、幼稚園児はスナック菓子、甘いケーキや菓子、果物の順であり、保育園児は果物、スナック菓子、せんべいとなっていたが、顕著な相違はなかった。

飲みものの好みについては表10の如く、両者に相違はなかった。

血液生化学を含めた健康診査についての保護者

表 11 健診（血液生化学）要望

施設 要望	総 数	幼稚園	保育園
希 望 す	1,711人 (79.4%)	854 (80.4)	857 (78.4)
希 望 しない	358 (16.6)	163 (15.3)	195 (17.8)
無回答	84 (3.9)	44 (4.1)	40 (3.6)

の意識調査では表 11 の如く、両者共に 80%近い親が希望していた。

【考察】 小児期における成人病予防の観点から、昨年同様に幼保育園児の生活状況調査を行なった。本年は保育環境（条件）の相違を考慮して幼稚園児、保育園児をそれぞれ約 1,000 名について両園児を比較検討した。その結果によれば、カウプ指数 1.8 以上の園児は明らかに保育園に多く、その差は 2 倍近い数値を示し、保育条件が大きく影響していることを知った。住居形式は幼稚園児の方が独立家屋に住む子どもが多くみられたが、両者には大きな差はなく、保育環境による影響は住居形式によっては考え難かった。

職業については幼稚園児の母親の大多数 78.0%（828 人）が専業主婦であり、保育園児の母親の多くは就労しており、専業主婦は僅か 3.7%（41 人）であった。この事から両者の食生活をはじめ、多くの保育条件に影響しているものと推測される。

家族構成は両園児に差違はなく、4 人家族が最も多かった。

子どもの遊びならびに性格については、昨年カウプ指数 1.8 以上の子どもは外遊びが好きで、性格も活発な子どもが多いと報告したが、今回の調査でも、保育園児にカウプ指数 1.8 以上の子どもが多く、男女共に、外遊びが幼稚園児より明らかに多く、性格も活発な子どもが多かった。

夕食後のおやつは保育園児の方が、よく食べまたはときどき食べる子どもが多くみられた。おやつの好み、飲みものの種類は両者に大きな相違はなかった。

【文献】

- 1) 日名子太郎：保育学概説 4. 1989
- 2) 日本保育協会編：保育関係資料 6.1990



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



【要約】平成元年度に、私どもは幼保園児の日常生活状況調査を行い、カウブ指数 18 以上の園児は、性格は活発であり、母親の就労が影響すると報告した。今回は幼稚園児と保育園児の保育環境を調査し、比較検討した結果から、両者に体格ならびに生活状況に大きな相違があることを知った。